



小児がん

2013年8月5日

公益財団法人 がんの子どもを守る会

小児がんとは・・・

- ✓ 子どもにおこる悪性腫瘍(「がん」や「肉腫」)を総称して「小児がん」といいます。
- ✓ 日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。
小児がんの原因は明らかでないことが大部分です
少なくとも明らかな根拠もなく「こどもが悪い子だったから」「両親が適切に育てなかったから」「家系に問題があるから」などと考えることは、科学的に不適當であるとともに、子どもが病気を克服するために何らの効果もありません。

大人と子どもの「がん」は違うの？

- ✓ 発症率が違います
大人に比べ、子どものがんの発症はとても少ない。
大人 約70万人/年 子ども 約2,000人/年
 - ✓ 種類が違います⇒「癌」と「がん」
大人のがんのほとんどは身体の表面から発生する「上皮性」の悪性腫瘍です。子どものがんは、筋肉や骨、血液などから出てくる「肉腫」と呼ばれる悪性腫瘍です。
- 両者は生物学的に違います。小児がんではがんが広がっているとわかる以前にすでに広がっています。成人癌の場合は早めに診断し、治療をすれば治すことができます。
- ★早期に診断して治せる小児腫瘍はきわめて少ない。

大人と子どもの「がん」は違うの？

- ✓ 進行しているがんでも、治すことができる場合があります。
- ✓ 現在、約70%の患者さんが治るようになってきています。(30年前は約10%の治癒率)



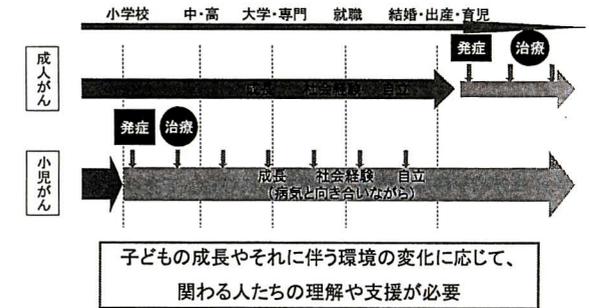
しかし…3歳以上の子どもの死亡原因では事故に次いで第2位です。

小児がんになると…

- ✓ 治療の副作用
強い治療のため
- ✓ 容姿の変化
脱毛、眼球の摘出、四肢の切断など
- ✓ 家族の二重生活(治療期間が1年…など)
遠方の病院での治療も多い
- ✓ 学校など就学の問題
- ✓ 結婚、出産などの問題
- ✓ 進学や就職などの問題
- ✓ 経済的な問題

など⇒病気になるからの人生。

子どもは治療後の人生が長い



経済的負担を軽減する社会制度

- 「子ども」・「がん」・「難病」
- ✓ 小児慢性特定疾患事業
- ✓ 特定疾患治療研究助成事業
- ✓ 医療費控除
- ✓ 高額療養費
- ✓ 特別児童扶養手当/障害児福祉手当
- ✓ 各種手帳(身体障害者、精神障害者等)
- ✓ 他、民間財団や基金などの制度

どんな治療をするの？

- ✓ 集学的治療
 - ✓ 手術などの外科的治療
 - ✓ 放射線治療
 - ✓ 化学療法
- ✓ つらく厳しい治療
 - ✓ 副作用：吐き気・発熱・脱毛・免疫力の低下
 - ✓ 容姿の変化：眼球摘出・切断なども



小児がんの子どもの学習

小児がんの好発年齢は乳幼児期⇒その後の生活学齢期に入院生活を送ると…
院内学級はあるものの、教育を受けるには転籍。
私立、高等学校は更に壁が。
⇒ 義務教育期間が国の範疇。
短い入院を繰り返すと…
転校手続きが間に合わず、学習の機会を逃すこともある。少数ながら、病気を理由に学校行事や、場合によっては入学を断られることも。